

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100167		
法人名	社会福祉法人 フィロス		
事業所名	グループホーム フィロスみなと		
所在地	名古屋市港区名港1丁目6番1号		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>4月に他のフロアと同時にオープンしたフロア。朝の体操や散歩、午後からのタオル体操など身体を動かす時間を日課として取り入れており、レクリエーション活動も利用者全員が参加して行うなど一日の流れが確定されている。フロア内には職員と利用者が一緒に作った作品が飾ってあり、そんな中で食事の盛り付けや後片付け、洗濯畳なども日常的に行われている。また、複合施設なためほかの事業所で実施されている行事にも参加している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年の4月に複合施設の中に開設されたばかりであるが、運営推進会議を一ヶ月目から開催するなど、意欲的な事業所である。近隣は、会社や商店が多く、地域交流を深めるためにパンなどの食品の移動販売車「ボンマルシェ」を定期的に開催しており、利用者との交流や、事業所としての地域での周知に役立っている。区役所からは、「介護相談」を移動販売の開催日に行いたいとの依頼もあるなど、地域介護の重要な位置づけを担う事業所として期待されている。職員一人ひとりが、これから事業所を作り上げて行く思いが感じられ、利用者のために何が出来るかを考えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所や職員更衣室に貼ってあり、職員一人一人がそれを頭に入れて仕事に取り組むように努めている。	理念は、日々の利用者との関わりの中で、立ち戻るべき拠り所として、職員に認識されている。ミーティング、カンファレンスなどで確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の理事や職員に地域の住民がおり、地域の情報が入るほか、地域で行われる大規模なお祭りに見学にいたり、散歩などで地域の方と挨拶をかわしている。	自治会には、入会していないが、運営推進会議に町内会長や、民生委員が出席しており、地域行事などの情報をもらっている。食品の移動販売車を呼び、地域住民とふれあう場所づくりをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の自治会長、民生委員を招きホームでの活動を報告し、月2回実施している移動販売には地域の方々にも参加いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設で実施している行事などの報告を行っているとともに、今後、地域の方に向けた認知症講座の実施について相談もおこなっている。	開設間もない時から、運営推進会議を支援センター職員、町内会長、民生委員、家族出席で開催している。複合施設全体で行われ、行事報告、地域での高齢者問題など多岐にわたり話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の様子を担当の方が定期的にホームに来訪している。利用者についての相談をいきいき支援センターと行っている。	利用者の手続き、相談などで役所を訪れる機会が多い。開設時には、多方面にわたり相談ののってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、完璧には理解していないため、その理解を深めるために、月1回身体拘束や虐待などについて委員会を行っている。	マニュアルがあり、定期的に身体拘束委員会を開き、勉強する機会がある。言葉の拘束などが見受けられた場合は、その都度、話し合うようにしている。フロアや玄関などすべての出入り口は施錠されておらず、行動制限していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故報告と合わせて月1回委員会を行い、日常のケアについて気付いた事を話し、虐待にあてはまらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用している利用者はいない。利用者の中で権利擁護や後見人なども制度利用が必要になった場合、管理者が対応している。職員の理解については個人差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時に説明して、わかりにくい表現の所はわかりやすく説明し、不明な点などお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から要望があった場合は管理者やリーダーがまとめて対策を行い、迷う時には施設長に相談して解決に努めている。苦情相談窓口も設置している。	面会時に直接聞き取ったり、利用者一人ひとりに、介護記録や行事報告をする書類を郵送する際、家族意見が聞けるようにしている。出された要望は、速やかな対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で職員からの意見を聞く時間を設けて対策に迷う時には、その意見をリーダー会議や全体会議で施設長に意見を求めて検討している。	職員は、各種の会議で意見や要望を出す機会があり、法人全体の会議でも、直接、代表者に提案できる。管理者は、職員が話しやすい雰囲気作りに努め、今後は個人面談も予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や保有資格に応じた給料制度を設けており、資格支援制度を設けて職員が各目標に向けてまい進できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月に一回勉強会を設けており職員が講師となり他の職員に伝える事で学びを深めている。また、外部からの講師を招いての研修会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他の同業者と直接交流する機会はまだあまりないが、ホームページを開設し、ネットワーク作りができるように努めている。また、今後直接の交流する機会を設けるように検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前にアセスメントを行い、本人の希望や要望、生活習慣など把握するように努めている。また、本人が安心して利用できるように個別ケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族が困っている事や要望、将来の事なども含めて話を伺い安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状や要望などを伺い、介護保険外のサービスを含め他に必要な事はないか検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員それぞれに価値観の違いがあるが、グループホームとは何かを日々考えながら関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に面会に見えている。管理者はホームでの行事や受診など連絡を取り合っており、職員はカンファレンスなどの会議の場で利用者の状態を話あい関係作りの役立っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの古い友人や知人などが気軽に来訪できる環境であるが、個々の馴染みの場所へはでかけてはいない。	同級生から、同窓会の案内状が届いたり、知人、友人が訪問したりしている。近くの喫茶店は、ここでの馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気の合う者同士と一緒に座れるようにフロア内での席は配慮されており、職員は利用者の間にはいるなどして利用者同士の関係作りができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、家族からの要望があった場合、相談に応じて不安なく移行できるように努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に伺ってあった本人や家族の意向、日々の関わりの中でわかってきた事などから把握するようにしている。	日常生活の中で会話・表情・行動から思いをくみ取るようにしている。一人ひとりとの関わりを大切にすることで、思いなどを話しやすい雰囲気作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス前のアセスメントや以前利用していたサービス事業所から情報の提供をしてもらったり、サービス開始してからも日々の関わりからわかった事などを話し合うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りノート、日々の関わりやご本人の話しの中で現在の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議を毎月実施しており、その中でカンファレンスを行い、計画書を作成するにあたりご本人やご家族などからの要望が反映できるように努めている。	モニタリングを行い、本人を交えてカンファレンスで検討し、その人らしいより良い生活ができるよう、本人や家族の要望が反映されている計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の様子は介護記録や申し送りノートに記入したりカンファレンスで話し合うなどして情報の共有してケアに反映させたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの、その時々を伺い、他のサービス利用や通院など対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から近くに散歩へいたり、ホーム近くの喫茶店へ出かけて行ったりしている。また、複合施設である事を生かして他の事業所に地域のボランティア団体の訪問があると一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始時に本人や家族からの要望に応じて専門医の継続した受診を支援して日頃はホームとの提携医で専門的な診察は専門医と合わせて活用している。	入居時に説明を行い、同意の下、内科・整形外科はホーム協力医の往診を受けている。認知症専門医やその他の科は家族対応で受診し、協力医や職員との情報交換を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設である利点を生かして、他の事業所の看護師が日頃の健康管理を行い月2回の受診時に適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、家族を始め病院関係者と話をする時間を設けて、状態の確認と今後の注意点など伺い、退院後スムーズに生活が送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に今後の治療も含めて、将来的な考えもお聞きして複合施設である事を含めて事業所として行える事などお話をしている。	入居時に重度化した時のホームの対応について家族に伝え理解を得ている。状況変化の都度話し合い、本人や家族の意向ができるだけ叶うよう、事業所がどこまでできるか検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	サービス開始前に提携医の説明や職員には救急救命の講義を受講させたり、普段とご様子の違う場合には、速やかに家族へ連絡し受診の相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に避難訓練を行っている。また、会議の場でも災害時の対応について話し合われている。	消防署の協力を得て、利用者と共に消火器の使い方などの火災訓練を行っている。水・食料の備蓄もあり、水害時には建物の上階に避難することを話し合っている。	具体的な避難経路・方法の確認や夜間想定避難訓練など、さらなる災害への備えに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面については入社時に研修を実施している。普段のケアの場でも気付いた時には、その度に言葉かけなどについては話をしている。	入社時に研修を行い、日々のケアの中でその都度話し合い、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねないような対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や散歩、コーヒータイムへの参加など本人の意思や意向を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のニーズを把握するように努めその日の過ごし方などご本人の状態や意向に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装の調節をするように努めている。持参された好きな衣類を着用して頂いている。ご希望の方には、月1回ホームに来る訪問美容でヘアカットをしているが、まだ、十分な支援はできていないのが現状である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事をしている。盛り付けや配膳、片づけなど職員と利用者が共同で行っており、自然と役割分担ができていく。	利用者は、盛り付けや片付けなど出来ることを手伝い、おやつやちらし寿司などを一緒に作ったりしている。給食委員会の中で、利用者の好みのものを話し合い反映するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量のチェックを行い、記録に残している。また、複合施設であるため、特養の管理栄養士が栄養のバランスや食事形態など考え対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行っている。自分でできる方には見守りで、その他のかたは洗面台まで誘導して準備をして促している。行えないかたには介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身で行える方は、見守りで、介助の必要な方には排泄リズムに合わせて誘導・声かけ介助、リハパンなどの処理を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンで声掛けや見守りを行っている。歩行訓練をすることでトイレまでの移動を行いやすくし、自立した排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を取るとともに水分摂取量もチェックしている。また、複合施設であるため、特養に看護師にも相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり入ることができる個浴を実施している。基本的には、日にちを決めて実施している。また、拒否がある場合は、無理強いせず、時間をおいたり職員を代えたりして入浴できるように支援している。	週3回程度、いつでも入浴することが出来る。しょうぶ湯などで季節を感じたり、緑の見える坪庭が寛ぎのある気持ち良い入浴を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋中に本人の状況に応じて横になる時間を設けたり、その方に応じた就寝時間に可能な限り対応している。また、シーツ交換も定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	サービス開始時に内服の有無や服薬時間などお聞きして、症状の変化の確認は併設施設の看護師とともに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用前に家事活動を行ってみえた方には、食事の準備や片づけを手伝ってもらい、塗り絵や作品作りなどが好きな方には余暇活動として行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関やフロアのドアには鍵がかかっておらず、自由に出入りできる状態である。近隣への散歩も日課となっている。また、本人の希望などをお聞きして、レクリエーションのひとつとして外出などにも取り入れている。	散歩や喫茶店、神社参り、市場やコンビニへの買い物などに出かけている。利用者の希望で遠方への外出先を決めるなど、できるだけ利用者の思いを叶えたいと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日課の散歩の時間にお参りする神社へのお賽銭や近くの商店街での買い物など日常的に行えるように努めている。また、月2回の移動販売でも好きなものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば対応するようにしているが現在は、行ってみえる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには利用者と職員が一緒に作った季節ごとの手作りの作品が飾られている。TVの前にはソファが置いてあり、室内の温度も調節されており、くつろげる空間になっている。	落ち着いた音楽が流れ、適度な光が差し込み、明るい色彩の寛げる共用空間になっている。すっきりと整頓されているが、温かみを感じられる空間である。手作りの飾りなどで季節を感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しの合う者同士と一緒に過ごせるようにテーブル席は考慮されており、また、1階玄関近くにベンチが置いてあり、外を眺めながら過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用時に居心地よく過ごせるように家族や本人と相談して自宅で使用している物や好きな物を持ってきてもらい居心地よく過ごしていただけるようにしている。	家族や本人の希望を取り入れた家具などを持ち込んでいる。入口には好みの暖簾がかかり、畳敷きになるように工夫した部屋もあるなど、その人に合った住みやすい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており廊下には手すりが取り付けられている。また、ドアは引き戸にになっており、利用者自身が自ら開け閉めできるようになっている。		